

# 令和3年度事業計画

社会が大きな変化を迎えるなか、制度改正などアマチュア無線を取り巻く環境も大きく変わろうとする令和3年度においては、アマチュア無線による社会貢献や次世代の育成を積極的に支援していくとともに、創立100周年が目前となったJARLのより一層の組織基盤強化を進めてまいります。

組織基盤の強化として取り組んできた会員増強活動については、平成27年度から3カ年ごと2期に渡って実施してきた地方本部・支部による会員増強企画や、各種のキャンペーンを引き続き実施するとともに、関係団体・企業などとの連携をさらに深め、会員の満足度を高めながら、組織の活性化と会員拡充のための各種事業に取り組んでまいります。

また、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」開催を記念した各種活動等によりアマチュア無線の魅力を国内外に発信するとともに、アマチュア無線人口が少ない「青少年」や「女性」という層に向けた体験機会の拡充等による啓発・育成活動に努めるほか、アマチュア無線がICT（情報通信技術）人材の育成や発掘において注目される中、社会貢献活動への活用をとおして、世代をこえた老若男女のコミュニケーションツールであると同時に、社会において一役を担うツールとして、より魅力あるアマチュア無線を次世代につなげるように、次のとおり事業を進めてまいります。

## 1. 会員拡充への取り組み

ここ数年来の地方本部・支部を主体とした会員増強企画の実施や、入会者や現会員に向けた各種キャンペーンの継続、さらにアマチュア無線やJARLの活動についての積極的なPRが着実に実を結び、コロナ禍によるハムフェアをはじめとした各種催事の中止や延期にもかかわらず、会員数の漸減傾向は確実に改善いたしました。この変化を揺るぎないものとするために、今年度も一層の会員拡充に取り組みます。

- (1) アマチュア無線の楽しさや魅力、JARLの役割・活動を、会員や一般の方々へより広くアピールします。制度改正によりアマチュア無線の体験機会が拡大したことを受けて、小中学生を中心とした青少年に対するアマチュア無線の普及・啓蒙活動を推進・支援します。

今夏開催予定の「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」について、この国際的なビッグイベントの記念局を西東京市で開設・運用する他、PR記念局や海外向け記念局を全国の各エリアで開設し、期間限定アワード発行やQSOパーティを開催します。

ハムフェア2021の開催とともに、22歳未満の青少年向けに特化した催事として、アマチュア無線への強い関心を引き出すこと、基礎的な楽しみ

方を紹介することを目的として開催されている「WAKAMONOアマチュア無線イベント」をハムフェアの特別催事として実施します。

- (2) 各地方本部・支部が主体となって実施する会員増強企画によって、アマチュア無線の活性化、会員増強を推進します。また、青少年やニューカマーに向けた入会キャンペーンにより幅広い年齢層への入会勧誘を進めるとともに、より長く会員として活躍していただけるよう現会員を対象とした各種キャンペーンを継続して、会員増強に取り組みます。

さらに、アマチュア無線に関係する団体や企業、販売店などとの連携を従前に増して深め、会員サービスをより充実したものとします。

- (3) アマチュア無線の魅力やJARLの活動について、JARL Web（ホームページ）をはじめ、YouTube等の動画配信やSNS、メールマガジンなどのインターネットによる情報提供を積極的に進め、スマートフォンやタブレット、パソコンによる身近なPR活動を推進します。

さらに、ラジオ情報番組「Radio JARL.com」（ラジオ・ジャール・ドットコム）をとおして新しいスタイルでJARLの話題やアマチュア無線の最新情報を一般の方々にもわかりやすく紹介してまいります。また、関係する紙媒体におけるアマチュア無線とJARLについての記事等掲載を通じて、多角的な情報提供、PRに努めます。

また、ニューカマー向けの冊子「スタートハムライフ」「アマチュア無線を始めたら読む本」などを活用し、JARLの会員特典やキャンペーンなどのリーフレットと併せて、イベントや各地の催事、関連行事で積極的に配布します。

## 2. アマチュア無線活動の推進

- (1) アマチュア無線活動を推進していくため、地方本部、支部において、地域の特色を生かした行事の開催などにより一般の方々へアマチュア無線の普及と啓発に努めます。
- (2) JARLが開設する特別局や特別記念局の運用、コンテスト実施、D-STARシステムの改善検討、ARDF競技大会、東京ビッグサイトで開催されるアマチュア無線フェスティバル、地方本部が主催する地方ハムフェアなどを実施し、アマチュア無線活動の活性化に努めます。また、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」の開催を記念した事業の一環として、期間限定アワード発行やQSOパーティを開催します。

また、令和2年12月末をもって約50年にわたり発行が行われていた読売新聞社の「よみうりア

ワード」の発行が終了したことから、その後継となる新アワード（「JARL全日本10,000局アワード」「JARL全世界10,000局アワード」）を令和3年4月より発行します。

- (3) JARL NEWSおよびJARL Web, JARL メールマガジン, CQ ham radio 誌掲載の「FROM JARL」により、アマチュア無線に関する充実した情報提供に努めます。
- (4) 旧スプリアス規格の無線設備の対応については、JARL, JAIA, メーカー各社と連携を取りつつ、スプリアス確認保証等の周知のPRに努めます。
- (5) アマチュア衛星など宇宙通信の促進のため、運用中や打ち上げ計画中の小型衛星に対し、衛星に関する技術や情報の提供に協力します。
- (6) ARISS (国際宇宙ステーション上のアマチュア無線) プロジェクトへの支援・援助をおこないます。また、ARISS組織の理事会にIARU加盟団体として引き続き代表を送り、このプロジェクトを推進するとともに、諸外国の宇宙通信計画にも積極的に協力します。
- (7) アマチュア衛星「ふじ3号 (FO-29)」の運用情報を利用者に提供し、衛星通信の普及促進に努めます。
- (8) アマチュア無線関連団体として、公益財団法人日本無線協会 (JRI), 一般財団法人日本アマチュア無線振興協会 (JARL) ならびに日本アマチュア無線機器工業会 (JAIA) と密接な連携を進め、アマチュア無線の普及促進と健全な発展のための制度の改善、電波利用秩序の維持などに努めます。
- (9) JARLの養成課程講習会にあわせて開催するビギナーズセミナーに協力し、受講者へのアマチュア無線の運用方法などの周知に努めます。
- (10) 社会全体の高齢化が進む中において、シニア世代の充実したセカンドライフや社会参加・世代間交流促進のために、また、かつてアマチュア無線を楽しんでいた方々のカムバックの契機となるように、シニア世代に向けたアマチュア無線の振興施策を行います。
- (11) 日本無線協会本部の実施する第三・四級アマチュア無線技士国家試験にあわせて、リーフレットの配布、開局申請書の販売、入会促進などの啓蒙活動を引き続き実施します。
- (12) 5MHz帯の割当およびローバンドの拡大の要望は、総務省に対して以前より行っており、1.9MHz帯及び3.5MHz帯での追加割当が昨年行われましたが、引き続き積極的に働きかけを継続してまいります。
- (13) モールス符号をユネスコの無形文化遺産へ登録することを目標に、引き続き世界の連盟と協調して広報活動に努めます。
- (14) 7月から9月にかけての「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」の開催に合わせ、全国

10地方本部毎に同大会を記念するPR局や海外局向けの記念局を開設し運用を行い、東京都内にはこれまで例のないような特別なコールサインの局を開設し、海外のアマチュア無線家や、女性や青少年の無資格者が体験運用などを楽しんでいただけるような機会を提供します。

- (15) これまで総務省へ要望してきたFT8などのデジタルデータ通信の免許手続きの簡素化については実現したが、引き続きアマチュア無線に係る免許申請手続きのより一層の簡素化を働きかけます。
- (16) 各地方本部に体験局で活用可能な無線機の整備が完了したことから、地方本部や支部の行事等でアマチュア無線の積極的なPRをおこないます。
- (17) ICT人材育成や人材の発掘のためにアマチュア無線が注目される中、昨年度、JARLとともに総務省への要望を行った、アマチュア無線の社会貢献活動への活用を支援します。

### 3. 電波環境のクリーン化と混信妨害の防止

- (1) ガイドンス局の運用、各種広報手段を通じて、アマチュアバンド使用区別の周知、法令の遵守を啓発します。さらに、総務省の各総合通信局と連携をはかりながら、ガイドンス局と規正局との合同運用を進めます。
- (2) 電波環境のクリーン化では、インバータを使用した太陽光発電装置やLED照明、様々な分野で利活用が計画されているワイヤレス電力伝送システムや高速電力線搬送通信などの電子機器、通信機器などからのノイズ障害およびアマチュア無線が電子機器に与える電波障害等々に関して、新技術の実用化に注意を払い、関係機関と連携し適切な対応をはかります。
- (3) 日本では既に2億数千局もの無線局が開設され、様々な新しい電波利用ニーズにより周波数リソースが極めて逼迫しています。電波の利用は年々増加し、次世代移動体通信システムの周波数需要に加えてIoT (物のインターネット) として人を介さない機器間通信 (M2M) や基地局を介さず端末機器が直接通信を行う端末間通信 (D2D) 等の新たな通信による利用も顕在化しており、周波数の再編やデジタル化等による周波数の確保が着々と進められています。周波数再編のプランでは、約4GHzの幅の電波を再編により確保して、新しい電波需要に対応するとのことです。周波数の利活用状況の調査も毎年のおこなわれており、活用状況が低い無線システムについては廃止等の措置も検討されていますが、極力、アマチュアバンドに影響がないようアクティビティーの向上施策等の適切な対応をはかります。
- (4) アマチュア無線が二次業務に指定されている周波数帯で、一次業務の無線システムとの干渉回避について、アマチュア無線が不利にならないよう一

次業務システム関係機関と連携し、適切な対応をはかります。

- (5) 地上デジタルテレビジョンの普及によりテレビへの放送受信障害は激減しましたが、アナログ放送用のアンテナやブースターを流用している視聴者もいるため、電波障害が発生する懸念があり、受信環境クリーン協議会などと連携し、引き続き事例とその対策についての情報収集をおこないます。

#### 4. 会員増強と会員事業の推進

- (1) 会員増強のため、つぎの事項を重点に進めます。
  - ① 支部ごとの養成課程講習会開催の取り組みについては、地方本部ならびにJARLとの連携のもとに実施し、新しいアマチュア無線家の育成に努力します。また、上級資格の取得についても、積極的に奨励します。
  - ② 日本無線協会の本部とその支部(全国10ヵ所)、JARLおよびJAIAなどの関連団体との一層の協力体制を継続し、初心者向け冊子やリーフレット配布などにより、アマチュア無線およびJARLの事業内容を紹介し入会を促進します。
  - ③ 若年層の拡大のために実施している、22歳未満の方であれば、局免許・アマチュア無線資格の有無にかかわらず、入会金と1年分の年会費が無料でJARLへ入会できる「青少年お試し入会」を継続し、若者に向けてさらに積極的にPRをはかります。
  - ④ 関連団体およびアマチュア無線専門誌などの協力を得て、多くの方に入会を呼びかける会員増強キャンペーンを実施します。また、本年度もハムフェアの会場で入会キャンペーンとともに、現会員を対象とした各種キャンペーンを実施し、会員の新規加入や継続に努めます。
  - ⑤ 大規模災害等発生時のアマチュア無線の有用性が改めて認識される中、コロナ禍により多くの方の在宅時間が増えたこともあり、アマチュア無線復活の動きが徐々に広がりつつあります。ニューカマーのみならず、OMの方々やJARLライフメンバーを含めたカムバック・ハムに向け、アマチュア無線を復活していくための開局の働きかけとPR活動を進めます。
  - ⑥ JARL QSLビューローへ送付されるQSLカードの中で、非会員あてに多量のQSLカードが届いている場合は、その非会員の方の入会を積極的に働きかけます。これと同時に、QSL転送事業の一層の効率化とQSL転送の電子化を推進します。
- (2) 会員事業の向上は、つぎの事項を重点的に進めます。
  - ① 団体保険であるアンテナ第三者賠償責任保険(施設賠償責任保険)や雷事故補償保険(動産総合保険)、傷害補償保険(団体総合生活補償保険)の継続・拡充を行い、安心してアマチュア無線

を楽しんでいただけるよう努めます。

- ② 旅行、ホテル宿泊、引越料金、通信講座、書籍および家電製品の割引制度、車両購入時の特典など会員の特典となる事業の拡充に努めます。
- (3) ICT(情報通信技術)を活用した事業は、次のとおり推進します。
  - ① インターネットを利用した会員事業や情報提供の充実をはかります。
  - ② JARL Webの内容拡充に努め、引き続き電子版JARL NEWSや電子版会員手帳、コンテンツの電子ログ受付およびアワードの電子申請受付、Eメール転送など、インターネット利用環境の整備に努めます。
- (4) 刊行物等の事業は、次のとおり推進します。
  - ① 2022年1月刊行予定のJARL会員局名録をはじめ、アマチュア無線に関する各種申請書や、その他JARL販売品などについて効果的な販売促進に努めます。
  - ② アマチュア無線に関する各種申請書、その他のJARL販売品について、事務局の窓口や通信販売、ハムショップ等での販売など、様々な方法で購入できるように会員の利便性の向上に努めます。

#### 5. 非常災害への態勢整備

- (1) 大規模災害の発生に備え、アマチュア無線を活用した側面支援のあるべき姿を検討し、「アマチュア局の非常通信マニュアル」の活用により万一の災害に備えます。
- (2) 非常災害時の迅速な対応に備えるため、臨時に貸し出す430MHz帯レピータ装置と発動発電機の維持管理をおこない、非常時の態勢を整備します。
- (3) 非常時の態勢整備をはかるため、非常通信協議会、地方公共団体および関連団体との連携を密にし、災害を想定した非常通信訓練を実施します。
- (4) 被災地での通信確保等で、地域において重要な役割をこれまでも果たしてきていますが、非常災害時のボランティア活動などを通じて、国や地方公共団体等の施策での共助を背景とする地域活動等へ、アマチュア無線の地域社会貢献ができるように努めます。

#### 6. 青少年へのアマチュア無線活動の支援と身体障がい者への援助・協力

- (1) 青少年へのアマチュア無線活動の周知・支援については、地方本部、支部およびアマチュア無線関連団体が連携し、青少年に対する科学啓発イベントへの積極的な参加や協力をおこなうほか、つぎの事項を重点的に推進します。
  - ① 22歳未満の会員を対象とした青少年への助成制度のほか、小・中学校の社団局、および高等学校、大学を対象としたJARL登録クラブ(学校クラブ)の社団局などへの助成を引き続き実施し、将来の科学や情報技術などを担っていく人

材育成を支援し、青少年のアマチュア無線活動への参加を促進します。また、タイの連盟 RAST をホストとして IARU Reg. 3 でも YOTA の実施が計画されていますので、日本からも JARL を代表する青少年チームの参加を予定し、具体的な検討を積極的に進めます。

- ② 青少年の宇宙開発や通信技術への興味とともに、アマチュア無線の楽しさに触れる機会を提供するため、ARISS スクールコンタクトについて積極的な支援・広報活動をおこないます。
  - ③ アマチュア無線とスポーツの楽しさを合わせ持った ARDF 競技をとおして、青少年の電波科学への興味を促進するよう参加拡大をはかります。
  - ④ 子供たちのアマチュア無線に対する興味を喚起する教育的な要素を取り入れたパンフレットの制作と配布をおこないます。
  - ⑤ 南極地域観測隊の協力を得て、南極局 8J1RL の特別運用を計画し、青少年のアマチュア無線家と観測隊員による交信の機会を提供することにより、自然科学への関心を増す機会を提供します。
  - ⑥ 無資格者の利用拡大にともない、ハムフェアなどの各種イベント開催時にも、この制度を最大限に活用して、特に女性や青少年により一層のアマチュア無線の周知・普及に努めアマチュア無線の楽しさを体験していただき、ワイヤレス IoT 人材育成の一役を担うことができる機会を提供します。
- (2) 身体障がい者のアマチュア無線活動を一層充実したものとするため、点字 JARL NEWS の見直し、

身体障がい者の団体等が開設する社団局への会費の助成をはかり、運用上の援助と協力をおこないます。

## 7. 国際協力の推進

- (1) IARU (国際アマチュア無線連合) などとの連携を緊密にし、ITU (国際電気通信連合) および APT (アジア・太平洋電気通信共同体) の国際会議をとおしてアマチュア無線用周波数帯の確保およびアマチュア無線の地位向上に努めます。
  - (2) 毎年7月に開催される IARU World Championship コンテストに加盟連盟局として参加し、アマチュア無線の活性化を図ります。
  - (3) 3年に1回開催される IARU Reg.3 (第3地域) 総会の年に当たりますので、総会に参加し、アジア・太平洋地域の各国アマチュア無線連盟との友好親善をはかるとともに、地域のアマチュア無線の発展についての議案審議に参加します。
  - (4) 国際非常通信訓練や ARDF 国際競技大会などへの参加により、各国アマチュア無線連盟との友好親善に努めます。
  - (5) アマチュア無線資格の相互認証の対象となっている諸外国のアマチュア無線資格保有者の来日時に、日本での運用が可能となるように免許取得を支援します。
  - (6) 2021年はアメリカのデイトン・ハムベンションは中止となりましたが、ドイツのハムフェア「HAM RADIO」に JARL ブースを出展し、JARL の紹介と、各国アマチュア無線家との友好親善をはかります。
- 以上のほか、各種事業の推進・維持のために効率的な事務局業務の実施体制強化を積極的に進めてまいります。